

武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画案に対する意見

2024年12月18日

日本共産党武蔵野市議団

武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画案は、武蔵野市長期計画条例第3条の「市長は、市長選挙が行われたとき又は市政をめぐる情勢に大きな変化があったときは、実行計画の見直しを行い、新たな実行計画を策定するものとする。」に基づき策定作業が行われたと理解します。

市長は議会答弁でご自身の選挙公約で、長期計画では読み取れないものを議論してほしいと述べられ、五つのテーマが示されました。

しかし、八月に行われた策定委員との意見交換の場でも、策定委員から「5つのテーマは長期計画で読み取れる」と発言されたことを記憶しております。

この間、市長公約を議論する中で「年金＋5万円」等の市長公約が、市民に誤解を生じかねない内容があったことを指摘致します。

以下5テーマに沿って意見を述べます。

(1) 就労を含めた高齢者の社会参加の支援

シルバー人材センターへの支援の記述が加筆されたことは良かったと思います。

(2) 子育て世代への外出支援

都市基盤の基本政策3、市民の移動手段の確保に「子育て世代」が加筆されました。等には障がい者なども含まれると考えますが、交通弱者である高齢者、障がい者、子育て世代などの市民と記述する方が、わかりやすいと考えます。

(3) 今後の学校改築のあり方の検討について

「学校の改築においては、地域で子どもたちを育てるという視点が大切である」と書き込まれたことは、武蔵野市の教育の大切な視点と考え賛同します。

第二中学校と第六中学校について名指しで統廃合の検討を進める記述が削除されたのは良かったと思いますが、全市的な視点から中学校の統廃合を検討すると受けとられる記述が入れられました。学校の統合ではなく、少人数（30人以下学級など）の

実施に向けた取り組みを武蔵野市として探究すべきと考えます。

「教育面を第一に」の文言が「子どもたちの学びを第一に」と書き換えられ、「建築面や財政面なども含めて検討し」と新たな書き込みがなされています。学校改築は、教育面を第一に考えるべきと考えます。教育的視点から専門家も交え検討し、そのための建築、財政などを検討すべきと考えます。

「教育面、子どもたちの学びを第一に」の記述とし、「建築面や財政面を」新たに書き込むのではなく、「～知見を踏まえ、様々な観点から課題を検討し」と記述する方が、市民にハード面を重視するという誤解をあたえないと考えます。

(4) 吉祥寺イーストエリアのまちづくり

公共自転車駐輪場について、「駅前から一定程度離れた場所に配置するなど」を削除したことは評価します。

「本町コミュニティセンターの移転にあわせて、中高生世代の居場所づくりなどの施設の複合化に向けた具体的な検討を進める」との記述は東部地域で求められてきたことで、歓迎します。中高生の居場所づくりについては、当事者の意見なども聴き具体化されることを求めます。

本町コミュニティセンター移転後の跡地利用の「地域的な背景を踏まえつつ」とあるが、何を考慮すべきと考えているのか記述すべきと考えます。

「快適性や安全性、地域性を備えたにぎわいのある魅力的なエリアとするため」とありますが、セントラルエリア、パークエリア、ウエストエリアの本文中に「にぎわいのある」という記述はありません。イーストエリアは住宅も多く混在しており、落ち着いた雰囲気が魅力の一つです。あえて「にぎわいのある」と書き込む必要はないと考えます。

(5) 吉祥寺パークエリアのまちづくり

「将来像の実現に向けた土地利用等の多様な視点を明らかにするため」と「土地利用などの多様な視点」の書き込みが新たに入りましたが、前段に「これまでのまちづくりの方向性を踏まえつつ」とあるように、これまでの高さ制限など土地利用の制限をしながら、良好なまちづくりを進めてきた方向性を堅持して「将来像を立案」していくことを求めます。「土地利用等の多様な視点」について、高さ制限の緩和はすべきでないと考えます。